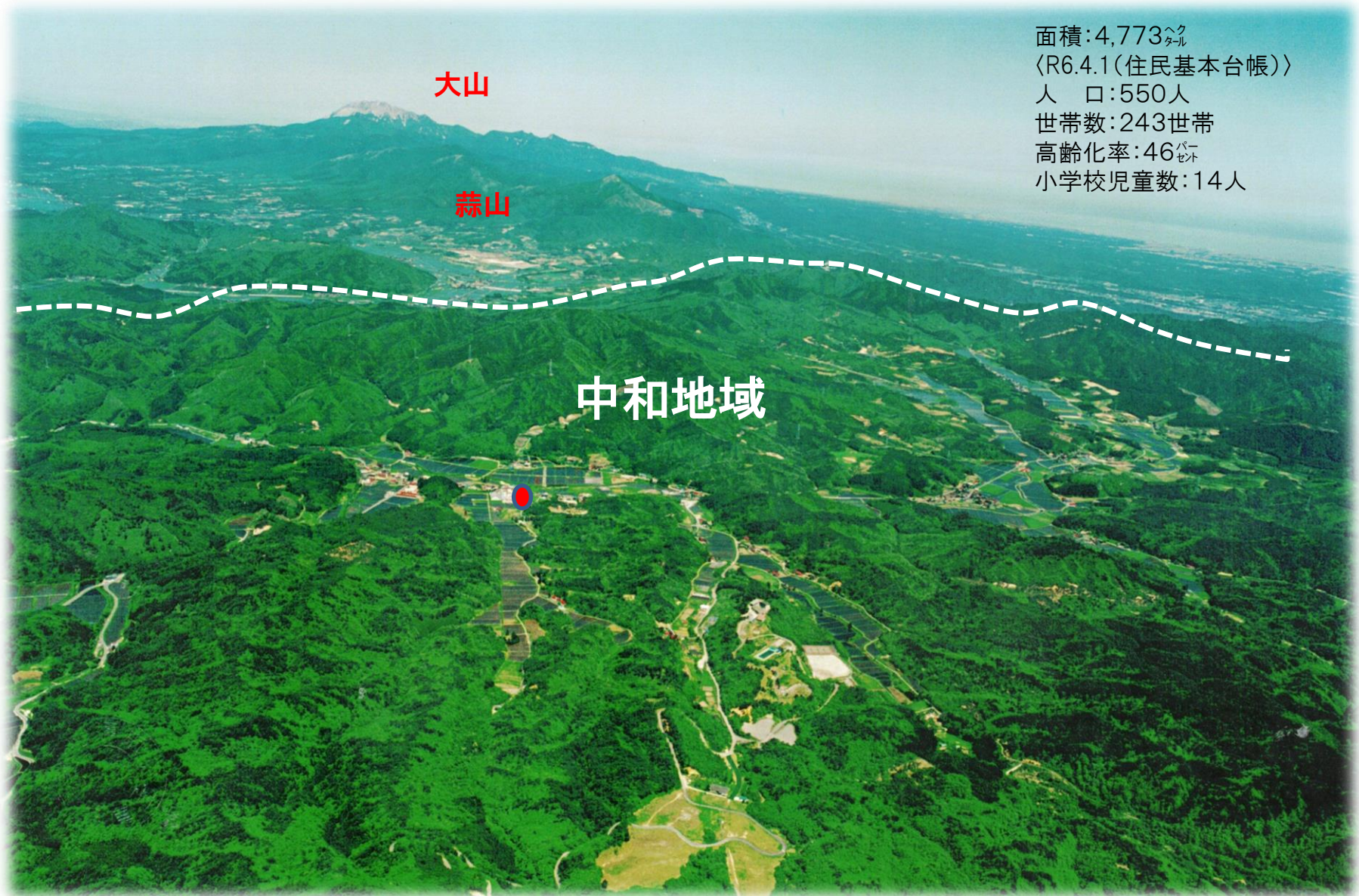


「中和いきいきプロジェクト」の歩み



面積: 4,773^{平方}メートル
〈R6.4.1(住民基本台帳)〉
人口: 550人
世帯数: 243世帯
高齢化率: 46^{パーセント}
小学校児童数: 14人

平成の大合併

〈平成の大合併〉市町村数が
3,232から1,821に(約44%減)

2005年(H17)
〈19年前〉

「真庭市」が誕生
…中和村は「中和地域」となる



人口:731人(高齢化率:35.9%)

2006年(H18)
〈18年前〉

中和小学校の新校舎完成

中和中学校が閉校(蒜山中学校に統合)

「真庭商工会」発足(市内と新庄村の各商工会が合併)

真庭農協と落合農協が合併(中和支所は給油所とATMのみに)

「尾崎縫製中和工場」が閉鎖

2007年(H19)
〈17年前〉

蒜山振興局の設置に伴い、「中和支局」が「出張所」となる

2009年(H21)
〈15年前〉

津黒高原荘が指定管理者制度に移行(指定管理者:(株)アストピア蒜山)

2010年(H22)
〈14年前〉

人口:675人(高齢化率:38.6%)

「真庭・トンボの森づくり」が津黒高原の森でスタート



市のCO2削減価値を企業に販売(国内クレジット)し、それを財源に森づくりを実施(協力企業の社員や市民が毎回約100人が参加)

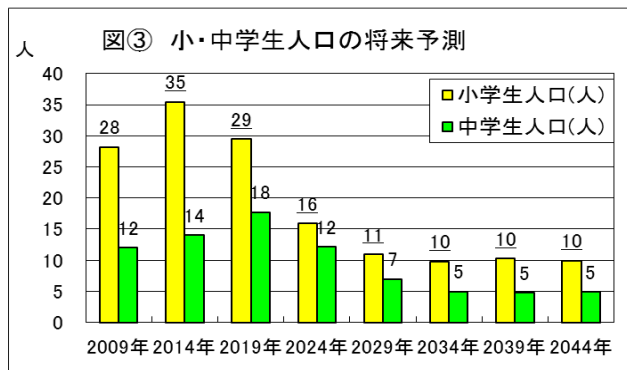
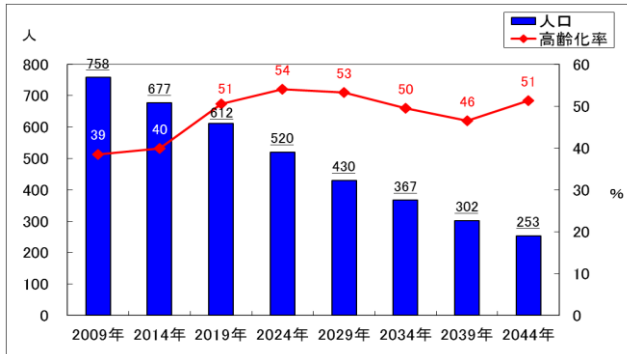


新たな地域づくりへのチャレンジ

2014年(H26)
〈10年前〉

全世帯に地域づくりに関する「アンケート調査」を実施

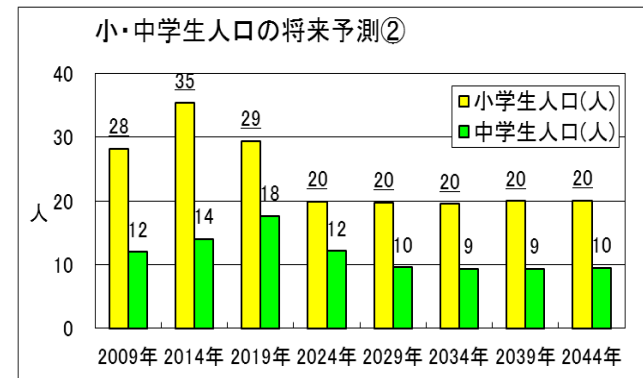
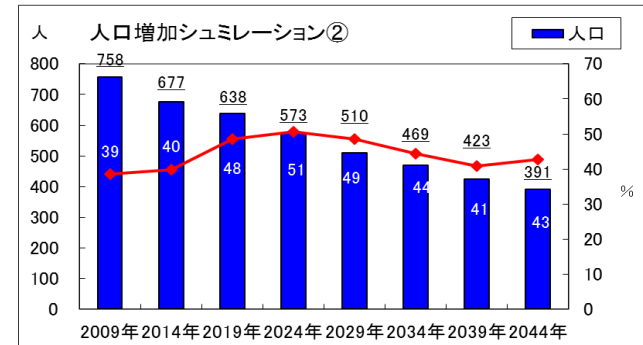
中和地区の人口の将来を考えてみました
現状維持のまま、U・ターンをまったく受け入れ
ないと、将来どうなるか？



高齢化率は50パーセント前後で推移
人口は減少の一途をたどる

いくつかの人口増加を検討

毎年1組の「30代前半の夫婦」が、4歳以下の
子どもを連れて、U・ターンすると？



年1組若い世代の増加すると・・・
小学生が20人前後、中学生が10人前後の
子どもが一定以上いる地域であり続ける

「中和いきいきプロジェクト」の取組みが始まる

2015年(H27)
〈9年前〉

「(社)アシタカ」(地域づくり会社)
が設立された



「中和地域薪生産組合」
が発足(会員:14名)

※ 市が津黒高原荘に薪ボイラーを導入し
地元住民は燃料となる木材を安定供給

※ 津黒高原荘に、薪ボイラーを導入

中和地域ガイドパンフレット
「ゆるるか中和」を発行



人口:669人(高齢化率:40.8%)



小学校でも「竹筒燃料」づくり

2016年(H28)
〈8年前〉

「地域づくり委員会」が、移住・定住対策を進める方針を決定

「真庭なりわい塾」が 中和をフィールドとして開塾



「中和いきいきサポーターズ倶楽部」発足

…小学校・保育園、地域づくりの
応援団(会員約35名)



「真庭なりわい塾」

コンセプト:「暮らしを創る力」「生業を創る力」「地域を支える力」を学び・体験

地域の人たちから暮らしを学ぶ



〈1年目は、基礎講座〉

毎月、一泊二日で開催
(地元の集会所で自炊)



様々な講師や実践者による講義



〈2年目は、実践したい講座を選択〉

里山の資源活用



塾生とPTAが連携して開催した
「子どもキャンプ」



農業の実践



「中和いきいきサポーターズ倶楽部」

(小学校・保育園、地域づくりの応援団)

裁縫とミシンの学習

裁縫達人に家庭科授業のお助け



書道学習

書道達人に書道授業のお助け

クリスマス

サンタさんお助け



子どもなりわい塾

高齢者から中和の歴史を学ぶ

中学生寺子屋

学習支援



合同運動会支援

母校と教員支援

地域内循環活動

竹筒燃料づくり 草刈り



中和小学校地域学校協働本部
が「文部科学大臣賞」を受賞

2017年(H29)
〈7年前〉

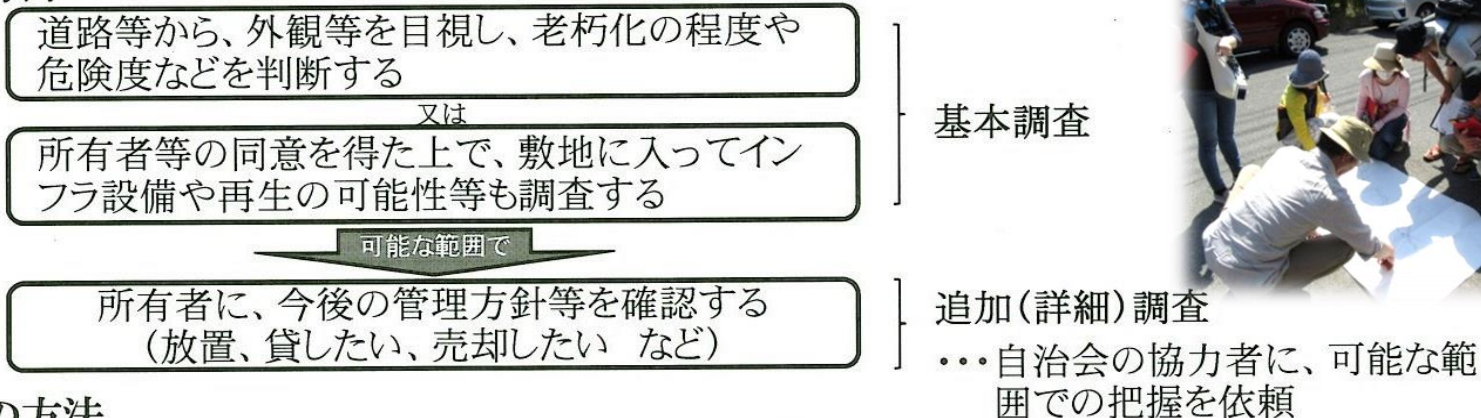
「空き家調査」を実施

…15棟の空き家が活用できることが判明(空き家率は約23%)

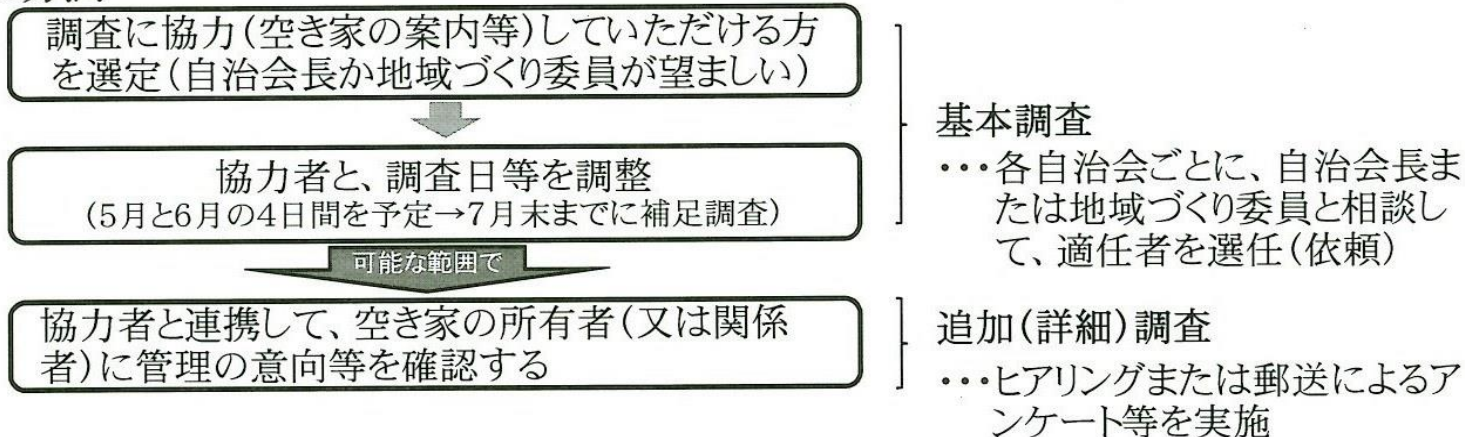
「空き家調査」の実施①

- ステップ1 基礎資料(現地調査用マップ等)の作成…4月上旬
- ステップ2 「空き家調査」の実施について合意形成→中和地域づくり委員会(4月20日)
- ステップ3 調査の具体的な進め方等を協議・決定し、実習→地域づくりPJ(4月22～23日)

① 調査方針



② 調査の方法



「空き家調査」の実施②

ステップ4 自治会長又は地域づくり委員と、調査の進め方や日程等について協議・調整
→全自治会(4月25～28日)

ステップ5 地域住民への調査の事前周知(調査の趣旨や内容等の説明文書を作成)
→全自治会で回覧(5月1日)

ステップ6 「空き家調査票」により現地調査(自治会と塾生が連携) →5月～7月

ステップ7 空き家の所有者に、アンケートにより意向調査 →8月～9月

ステップ8 実例関係者の聞き取り調査(移住者・家主・地元住民) →9月

ステップ9 啓発用パンフレットの作成(塾生を中心に編集) →10月～

ステップ10 調査結果の整理と活用

① 調査結果の概要と空き家対策の必要性等について、地域住民にお知らせする

空き家の所有者や地域住民向けの、啓発用パンフレットを作成(個人情報に触れることの無いよう注意)

② 「調査票」(個票)は、個人情報として慎重に管理する

③ 「貸したい」「売りたい」という意向の家屋は、移住者の受入体制を整えてマッチングする

④ 倒壊等の危険度が高い家屋については、各自治会の判断により所有者等に改善を要望する



2018年(H30)
〈6年前〉

集会・交流拠点「えがお商店」 を開設（旧平岡商店を改修）



2019年(R1)
〈5年前〉

「中和定住案内所」を開設 …(移住・定住相談員:5名)

2020年(R2)
〈4年前〉

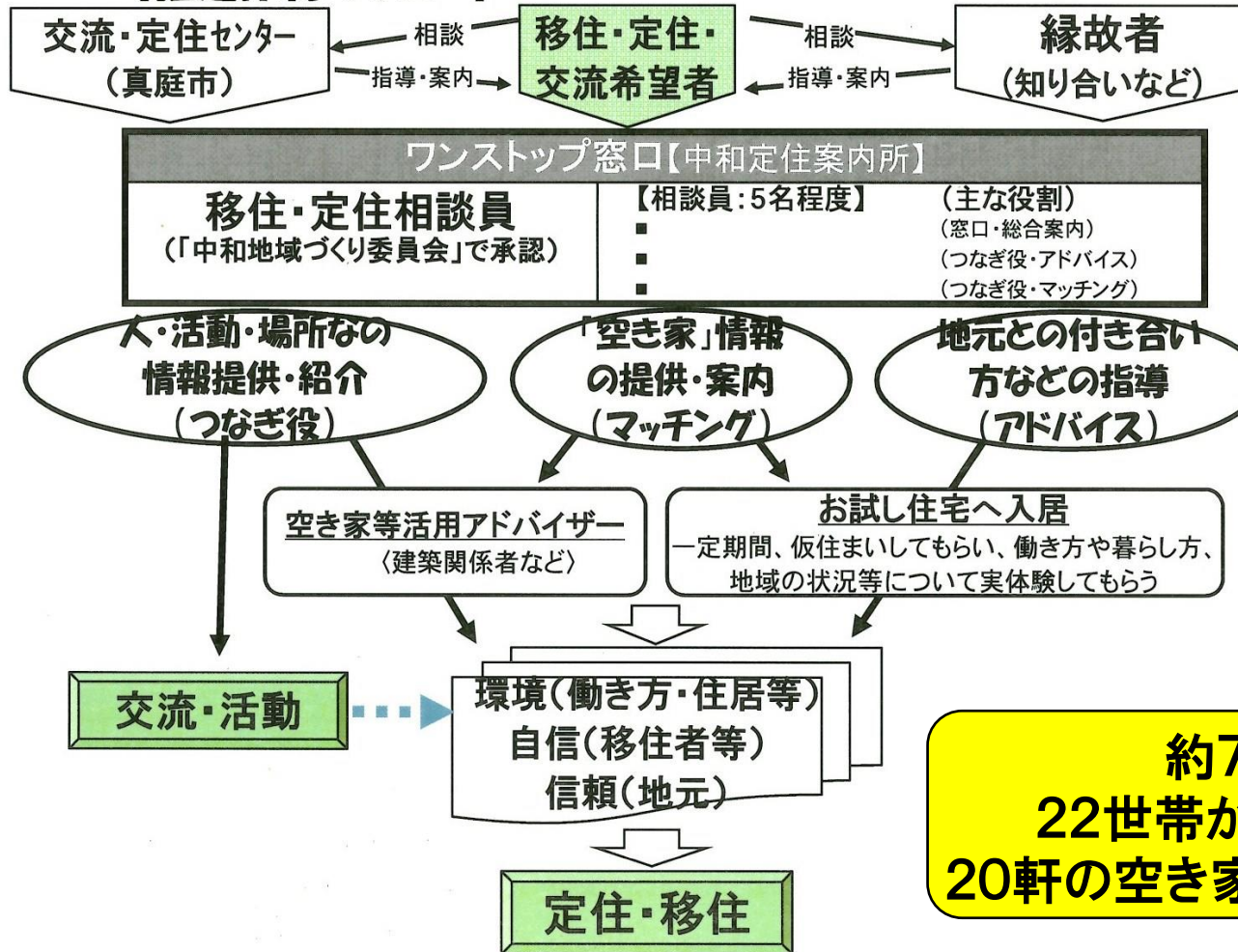
空き家の再調査を実施 …10棟の空き家が活用できることが判明

地域づくり委員会が「過疎地域自立活性化優良事例表彰」を受賞

中和における移住・定住対策の基本方針

- 1 移住・定住対策を推進するため、ワンストップ窓口「中和定住案内所」を開設する。
- 2 中和への移住・定住または交流をしたいと考えている人に対応するため、情報提供やアドバイスなどを行う「移住・定住相談員」を置く。
- 3 定住案内所に関することは、中和地域づくり事業の一つとして実施する。

【推進体制のフロー】



2021年(R3)
〈3年前〉

2020年度の**人口が増加**に転じた (真庭市の旧町村エリアで唯一)

【人口:600人(11人増)、世帯数:257世帯(4世帯増)、
高齢化率:45.3%(0.7%減)】

2022年(R4)
〈2年前〉

少人数**教育・保育の魅力化**へ

(関係者の合意形成→地域に情報発信)

- ・「中和いきいき学習科」(特例校指定)の導入
- ・「山村留学」の検討
- ・「自然保育」の充実

地域の助けあいによる**公共交通**づくりへ
(「中和コミュニティ交通検討委員会」を設置)

3年ぶりに「ふるさとまつり」「紅葉祭」を開催

2023年(R5)
〈1年前〉

中和小学校が「教育課程特例校」(中和いきいき学習科を設置)に指定

「ちゅうかり山留学協議会」が発足

地域づくりの財源確保へ

「中和ふるさと納税」(地域指定寄附に返礼品を贈る)の体制づくり→募集開始(10月)

➡ 約146万円のふるさと納税が集まる

2024年(R6)
〈本年〉

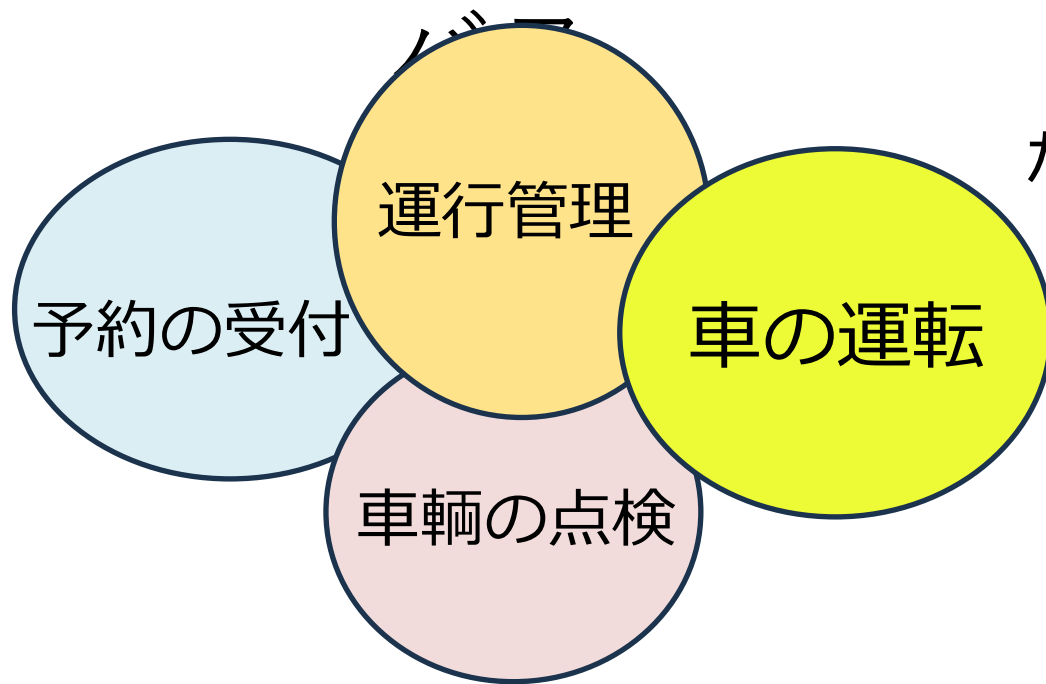
4月～ コミュニティバス(中和モデル)の運行開始

4月～ 「里山留学」児童の受入れ開始(1名)

地域の助けあいによる公共交通とは？

形態

= セミデマンドのコミュニティ



などの運営を
地域の人
が主体とな
っておこな
う

地域の助けあいによる公共交通の利点は？

乗客が利用しやすい

家の近くで上下車できるので
高齢者にやさしい

地域の仕事づくり

現役を引退した人や
移住者の仕事になる

地域の見守り

中和の住人が関わるので
異変があればいち早く気付く

高齢者福祉の点からも注目！

ないものねだりより
あるものを大切に

今ごろ旧来型のデマンドでのスタートは

周回おくれ・・・

のような気がしないでもないですが…



中和は人口も少なく、民間業者やAIの導入は難しいので

今よりも便利に！

を相言葉に前へ！

高齢者の外出支援

という面にも注目

高齢者の外出は、フレイル・認知症などの
予防に効果が見込まれる！



ふるさとと納税への取り組み

ふるさとと応援交付金制度とは？

ふるさとと納税は市町村が寄付の対象



ふるさとと応援交付金制度

さらに細かい地域を指定して、寄付ができる制度

中和地区でもH29年度から同制度に参加していたが、積極的な取り組みはなされておらず、ずっと寄付金は2～3万円止まりだった

中和をみてみると…？

せっかくの良い制度なのに
活用できていない

ネット販売している事業者
も
複数あるのに…

市町村合併で、地域独自の
取り組みへの予算が得られにく
い

R5

年
春！

新たに返礼品を設定して
スタート！

導入によって期待される効果は？

- ①中和地区を知ってもらい、ファンになってもらう
- ②多様性に富む返礼品で中和をPR
- ③さまざまな「なりわい」を実践している移住者等の売り上げアップ
- ④保育園・小学校の魅力化をはじめて未来へ向けてのチャレンジの財源を得ることができる
- ⑤移住定住への効果 など

ふるさと応援交付金制度の立ち上げへ

制度立ち上げのポイントは？

◎返礼品提供者の募集・選定

(信頼できる地元の業者・差別化できるもの)

◎ウェブサイトの開設

(初期投資としてはこれが一番経費がかかる?)

◎市との連携

(申込窓口は中和だが、寄付金は市に入る)

など

「中和ふるさと納税」参加事業者

食品・食材関連…6事業者

うなぎ

そば

とうふ

りんご

ジビエ

醸造所

「中和ふるさと納税」参加事業者

農業・雑貨・宿泊関連…9事業者

有機農法
3軒

手造り雑貨

木工・木材
製品 2件

山荘ロッジ

草木染

津黒高原荘

「中和ふるさと納税」実績（R5年度）

寄付件数 49件

寄付金額 1,463,000円

経費総額 722,202円

差し引き **740,798円**

**約74万円が中和の地域づくり事業に
使えるお金として入ってきました！**

持続可能な地域へ 「中和ふるさと応援事業」のつかいみち

令和6年度「中和ふるさと応援事業」一覧表

区分	事業名	事業内容	助成金等	実施主体
中和小学校・保育園の魅力化と子育て支援	① 中和小学校・保育園の魅力化事業	小学校の「中和いきいき学習科」や、保育園の「自然保育」(園の畑での活動も含む)などの活動を支援する。	□資材・用具等費、交通費、指導員等の謝礼 ※ 既定予算が不足する場合に助成する。 【予算額:協議】	中和小学校 中和保育園
	② 中和小学校・保育園「食育」推進事業	中和のよい食材を給食に使用し、児童・園児の調理実習を充実させるなど、「食育」につながる活動を支援する。(小学校や保育園との連携の上で実施)	□資材・用具等費、交通費、指導員等の謝礼 【予算額:計画中】	食育ボランティア等の任意団体
	③ 里山留学・学童保育促進事業	小学校に里山留学する児童の受入れと、学童保育(放課後の遊びや生活の場を提供)の活動及び施設・用具等の整備について支援する。	□資材・用具等費、施設整備費、指導員等の謝礼 ※ 既定予算が不足する場合に助成する。 【予算額:協議】	ちゅうかり山留学協議会
	④ 未就学児の子育てサポート事業	中和保育園に入園できない0歳児や、保育園の運営時間外(日曜日・夜間・休園日)などの子育てをサポートする「子守チーム」の設立と活動を支援する。	□組織の運営費、サポーター等の謝礼、 【予算額:計画中】	子守チーム(仮称) ※ 設立を検討中
	⑤ 出産お祝い金贈呈事業	中和地域に住所を有する方の出産に際し、お祝い金を贈る。	お祝い金:1万円/人 【予算額:30,000円】	中和地域自主組織
移住・定住の促進	⑥ 空き家の片付け支援事業	新規移住希望者(仮住まいとして借家に入居中の移住者も含む)への売買や賃借が決まった地域認定空き家について、家財道具等撤去費を助成する。	7万円(1軒の上限額) ※ 市の補助金を合わせると27万円となる。 【予算額:140,000円】	空き家の所有者 又は、購入(借受)者
		中和定住案内所のマッチング及び啓発活動を支援する。	※ 周知・啓発パンフレットの作成 【予算額:50,000円】	中和定住案内所
	⑦ 「お試し住宅」整備事業	「お試し住宅」として活用できる既存施設を調査・点検し、利活用可能な施設として整備する。	□ニーズ調査費、施設整備費 【予算額:計画中】	中和定住案内所
⑧ 二十歳のお祝い「ふるさと便」お届け事業	中和出身者で二十歳になった人(地域外居住者を含む)にお祝いを贈るとともに、中和の情報を提供(希望者には継続)する。	5千円程度/人 ※ 中和の特産品セットと情報紙などを、年度末に送付 【予算額:50,000円】	中和地域自主組織	
地域生活の課題改善	⑨ ごみステーション修繕支援事業	老朽化した「ごみステーション(鉄かご)」の修繕等に要した費用を助成する。	1万円(1件の上限額) ※ 令和6年度は、緊急性の高いものから7件を採択予定 【予算額:70,000円】	各自治会
	⑩ コミュニティバス運行支援事業	中和コミュニティ交通協議会が運行するバス運行について、住民ニーズに幅広く応えるための臨時便運行を支援する。 例)ふるさとまつりや紅葉祭の送迎便、小学校・保育園の活動 など	中和コミュニティ交通協議会が運行する臨時便に要する経費 【予算額:協議】	中和コミュニティ交通協議会
	⑪ 美しい景観づくり推進事業	公共性の高い屋外の景観を改善するための、環境整備の活動を支援する。 例)国・県・市道沿いに密集する竹林の伐採 など	2万円(1件の上限額) ※ 令和6年度は、4件までの事業を採択予定 【予算額:80,000円】	各自治会または 3名以上で組織する任意団体

自治会などによる活動

令和6年度 中和地域づくり事業計画一覧表

事業名	事業の内容	単位：円
		R6計画 補助金額 (自己負担額)
① 会議・調査・広報事業 (委員会)	地域自主組織の会議を開催して地域住民の意向・要望等を把握するとともに、広報紙を発行して情報を共有。	23,000 (1,000)
② 中和地域環境美化活動 (各自治会)	中和地域の全自治会が一斉に、河川の草刈り及び清掃を主体とした環境美化活動を実施。	173,000 (35,000)
③ 中和ふれあい花壇整備 (ボランティア組織)	ボランティアにより、主要道路沿いに花壇を整備するなど、美しい景観づくり活動を実施。	34,000 (0)
④ 三世代交流七夕・そうめん流し (別所地区)	別所地区の子供たちを中心に、父兄やおじいちゃん、おばあちゃんなど三世代が一緒に楽しめるイベントを開催。	10,000 (5,000)
⑤ こどもはぐみ応援事業(中和地域自主組織・いきいきサポーターズ倶楽部)	中和保育園・小学校を持続可能にしていくため、子育ての活動や少人数保育・教育の魅力化、里山留学等を多面的に支援する。	60,000 (0)
⑥ 三世代交流夏祭り (一の茅地区)	一の茅地区の子供たちを中心に、父兄やおじいちゃん、おばあちゃんなど三世代が一緒に楽しめるイベントを開催。	24,000 (15,000)
⑦ 三世代交流山の神祭り (一の茅地区)	一の茅地区の全世帯が参加して、男性が料理などで地区の女性(山の神)や子供、お年寄りたちをもてなす交流イベントを開催。	10,000 (16,000)
⑧ 「中和の名水」整備・管理事業 (中和地域自主組織)	津黒仙の湧水(中和の名水「津黒泉水」)を、だれでも汲み取って飲めるように整備・維持管理する。中和の名水としてPR。	7,000 (0)
⑨ 「えがお商店」を拠点とした地域づくり推進事業(中和いきいきサポーターズ倶楽部・地域自主組織)	「えがお商店」を子どもからお年寄りまでの集いの場、地域内外の様々な人達の交流と「つながり」の場、地域づくりの活動拠点として運営(維持・管理は中和いきいきサポーターズ倶楽部)。	100,000 (0)
⑩ 地域住民の出会い・交流推進事業(中和地域自主組織)	スポーツや共同作業などを通じて、地元住民と移住者などの出会いと交流の場を提供することにより地域コミュニティの活性化を推進。	15,000 (5,000)
⑪ 三世代交流夏祭り (下鍛冶屋地区)	「ふいごの会」を中心に、父兄やおじいちゃん、おばあちゃんなど三世代が一緒に楽しめるイベントを開催。	10,000 (23,000)
合 計		466,000 (100,000)



「オール中和」で手づくりイベント ～中和紅葉祭(11月)～

若者たちの結束力で継続する盆祭り

～中和ふるさとまつり(8月)～



自治組織＝

中和地域づくり委員会 (中和地域自主組織)

実施

真庭市地域づくり事業補助金

実施

中和ふるさと納税活用事業

自立

設置

中和定住案内所

設置

コミュニティ交通協議会

設置

中和紅葉祭実行委員会

協働

参画

中和コミュニティ・スクール
運営協議会
ちゅうかり山留学協議会

連携

地域貢献型の任意組織等

いきいきサポーターズ倶楽部

一般社団法人はにわの森

一般社団法人アシタカ

など

〈中和の地域づくり方針〉

～いきいきとした人々、多様な働き方、よい教育、自然の恵、安全、豊かな人間関係～

(協議資料)中和地域づくり委員会

① あらためて、中和を見直してみよう!

- 中和には、豊かな自然に恵まれ、森や耕地、伝統文化、観光施設など多彩な資源がある。
- 心の温かい人が多く、さまざまな人財、元気な若者たちもいる。
- 「中和を元気にしたい」「できることは協力する」といった、地域づくりへの意識が高い。また、移住者の受け入れについても前向き。(平成26年に実施したアンケート結果)

全世帯を対象に
「住民アンケート調査」
を実施
(平成26年7月)

地域を見直したパンフ
「ゆるるか 中和」
(小さな里山資本主催)
(平成27年3月発行)

できる人が
できるコトを…
頑張っていこう!
(平成27年～)

② 中和が元気でよくなる(活性化)とは、どうなること?

- 人口はもう少し減るものの、「中和小学校」の存続が可能な子どもの人数を維持できる、世代のバランスをつくること。(移住・定住を推進)
- いまある資源(農地や里山林、観光施設など)を活かし、少しでもお金を生み出し(お金を地域内で回し)、様々な仕事(稼ぎ)を自ら創ること。
- 多様な働き方、心の豊かさを感じられる暮らしができる魅力ある地域になること。(様々な人たちにとって、居心地のいいコミュニティ)

③ 中和いきいきプロジェクト(地域づくり活動の総称)

(平成27年1月:「中和地域新生産組合」発足)

(平成28年6月:「中和の新鮮とどけ隊」発足)

(平成28年4月～:令和4年度は6期生が基礎講座)

(平成29年～:空き家を地域再生の資源に)

(平成30年～:えがお商店を拠点に、様々な繋がりが…)

薪プロジェクト

石油などの化石燃料の代わりに地域の木(薪)を、津黒高原荘のボイラー用燃料などに使う事によって、地域外に支払っていたお金が住民に入り、地域を回っています。また、様々な「稼ぎ」も生まれています。以前のように多様性のある、恵み多い里山へと再生されていく事を期待しています。



中和の有志が新生産組合を設立(現在15名)し、山から切り出した丸太を軽トラで運び、アシタカに販売しています。

木を燃料などに使う事は大変ですが、その分多くの人に関り、山が再び価値を取り戻します。人と人、人と自然、失われつつあった関係性が復活してきており、そんな中和に魅力を感じる人も増えています。

野菜プロジェクト

家庭菜園などで栽培した自家用作物などを、道の駅「犬伏」に出荷・販売しています。共に支え合いながら、生涯現役で頑張りたい。野菜や果物、切り花などを買ってもらう喜び、作る喜びを感じながら、少しでもお金にすることで、やりがいや生きがい、人のつながりを深め、広げていきます。現在の産直農家は、約20戸に拡大しています。



～令和2年度～
保育園横の車庫が集荷場所です。集荷者同士のコミュニケーションも楽しい。週末の朝に出荷すれば「犬伏」さんが取りに来てくれます。売れ残りの処分も道の駅がしてくれますので、気軽に出荷できます。生産者の顔が見えるようにして、安全で安心な農作物や加工品であることをPRしています。

現在、〔中和の新鮮とどけ隊〕の会員数は6名です。令和3年度からは個々に道の駅や真庭市場に出荷することになりましたが、隊としての活動は継続していきます。

真庭なりわい塾

自ら応募した20～50代の男女25名が、2年間ほぼ毎月、中和を訪れて学び、交流しています。中和の方や外部の有識者を先生に、地域の歴史や文化、暮らしを学びながら、自らが「暮らしを創る力」「なりわいを構想する力」「地域を支える力」を身につけるように頑張っています。そして、中和に移住する塾生も増えています。



塾生たちは、地域を歩き、中和で暮らす方々から様々な知恵、昔と今の暮らし、伝統などを聞きます。

塾は1泊2日で開催しています。宿泊は地元集落の集会所を利用します。

食事は塾生が協力して自炊。時には地元集落の方と一緒にご飯を食べたりもします。

2年目は「実践講座」。農林業、里山資源、地域づくりなどのコースがあり、中和の実践者たちが指導します。塾生たちは、実際に現場で作業をしたり交流しながら、地域の人たちとの関係を深めています。

空き家プロジェクト

13集落すべての自治会と、なりわい塾の塾生などが協力して「空き家調査」を行いました(平成29年)。その結果、空き家の数はおおむね62軒。その内、持ち主の意向も踏まえ、再生・利活用できそうな空き家が、15軒以上あることが分かりました。そこで、「中和定住案内所」を設置し、定住希望者とのマッチングを行いながら、空き家を活用した移住・定住を進めています。

さらに、自力(地元住民や塾生たちが連携)で空き家を改修し、集いと交流の場「えがお商店」が誕生しました。

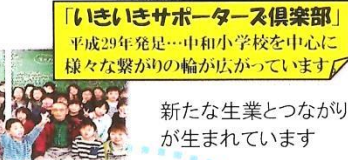


「えがお商店」
みんなのプラットフォームに…



つながりプロジェクト

地域づくりで重要なのは「人材」と言われます。中和においても大切な資源は「生きいきとした人々」です。薪プロジェクトや野菜プロジェクトなどの実践をとおして、“できる人が、できるコト”に取組み、継続していけば、地域が動き活性化していくことを実感しました。また、「真庭なりわい塾」や「空き家プロジェクト」によって、様々な関係が生まれ、若い世代を中心に新たな「生業」や「つながり」が創出されています。今後も、都市的な豊かさとは異なる「暮らしの豊かさ」を実感でき、子どもたちが未来への可能性を感じられる中和地域を目指して、みんなで頑張っていきたいと思います。



「中和定住案内所」令和2年開設
…約6年間で18軒の空き家に明かりが灯り、21世帯の移住がありました

むら(小さな地域)は、いつも崖っぷち！

地域を活性化するには・・・

地域づくりの良い取組みを、やり続けること！

資源は

自ら考え、主体的に行動する人たち
そして、仲間としてそれを支える地域住民

種をまき、みんなで育て
そして、世代をつないでいこう！！